

令和3年度 全国学力・学習状況調査およびすくすくウォッチの結果について

深秋の候、平素は本校教育のためにご支援ご協力を賜りまして厚くお礼申し上げます。令和3年度の本校、学力・学習状況調査およびすくすくウォッチの結果について、分析（成果と課題）及び取り組みをご報告させていただきます。

1. 学力調査の概要

(1) 国語について

【概要】

平均正答率の分布は全国や大阪府のものと同じ傾向にあるが、ほとんどの問題で大阪府や全国の平均正答率を上回っています。領域では「A 話すこと・聞くこと」、問題形式では「選択式」において特に正答率が高くなっています。反対に、領域では「C 読むこと」、問題形式では「記述式」において正答率が低く、課題が見られます。

設問番号	学校の平均正答率
1-(一)	78.6%
1-(二)	78.6%
1-(三)	95.2%
2-(一)	88.1%
2-(二)	95.2%
2-(三)	38.1%
2-(四)	21.4%
3-(一)	73.8%
3-(二)	71.4%
3-(三)(1)ア	88.1%
3-(三)(1)ウ	66.7%
3-(三)(1)エ	81.0%
3-(三)(2)イ	85.7%
3-(三)(2)オ	52.4%

〈特に成果が見られた問題〉

本校では一年生から、日頃の漢字の学習だけでなく、漢字の習熟度テストを実施し、定着具合の分析を行うなど、特に漢字に力を入れて取り組みを行ってきました。その成果もあり、3-(三)(1)の問題の正答率が全国や大阪府の平均を上回っています。また、以前から本校の課題として記述面の弱さが上がっていたことから、一昨年度より「書くこと」を校内の研究テーマとし、普段の授業での取り組みや、作文スキルを取り入れるなどしてきました。そのため3-(三)の記述式の問題では、全国や大阪府の平均正答率を大きく上回ることができました。

〈特に課題が見られた問題〉

「成果が見られた問題」でも挙げたように、文章を記述して答える問題自身が苦手なわけではなく、2-(三)、(四)から、広い範囲から取捨選択した複数の情報を関連付けながら文章を構成する力が弱いように思われます。また、3-(三)(2)オから、修飾と被修飾の関係など、文を構成する要素への知識も必要であると感じました。今後はこれまでの書く活動の中に、条件を付けたり、複数の資料を関連付けて読み取ったりするような活動も取り入れていきたいです。

(2) 算数について

【概要】

本校の平均正答率を見ると、「学習指導要領の領域別」「評価の観点別」「問題形式別」のどれをとっても全国・大阪の平均正答率上回っています。領域では「C 変化と関係」や「D データの活用」、問題形式では「選択式」や「短答式」において正答率が高くなっています。反対に、領域では「B 図形」、問題形式では「記述式」においては、他の項目に比べて正答率が低く、課題が見られます。

〈特に成果が見られた問題〉

設問番号	学校の平均正答率
1-(1)	66.7%
1-(2)	95.2%
1-(3)	69%
1-(4)	95.2%
1-(5)	88.1%
2-(1)	57.1%
2-(2)	64.3%
2-(3)	59.5%
3-(1)	100%
3-(2)	95.2%
3-(3)	69%
3-(4)	69%
3-(5)	90.5%
4-(1)	95.2%
4-(2)	61.9%
4-(3)	59.5%

3-(5)「集団の特徴を捉えるために、どのようなデータを集めるべきかを判断することができる」かを問う問題において、全国や大阪府の平均正答率を約20ポイント上回っています。

4-(1)「示された除法の結果について日常生活の場面に即して判断することができる」かを問う問題においては、全国や大阪府の平均正答率を10ポイント以上、上回っています。

普段の授業でしっかりと自力解決の時間を取り入れてきたことや、今年度は1人1台端末を活用して、さまざまなデータからの読み取りや、友だちとの考えの共有をしてきた成果であると思われま。

〈特に課題が見られた問題〉

2-(2)「複数の図形を組み合わせた図形の面積について、量の保存性や量の加法性を基に捉え比べることができる」かを問う問題だけ全国や大阪府の平均点を下回っていました。この問題を解くためには、直角三角形の位置や向きによらず面積が等しいことを捉えることが必要です。

そこで、今後はICT機器も活用しながら、さまざまな形、向きの図形に自分の手で触れて考えられるような授業を行っていく必要があると考えます。

また、記述問題の無解答率が他の問題に比べてやや高かったことも今後の課題です。

(3) 【わくわく問題】（教科横断的）について

観点別	学校の平均正答率
A 図や表、グラフ、短い文章、会話文等に示された内容を関連付けて、正しく捉える。	61.9%
B 図や表、グラフ、短い文章、会話文等の内容を正しく理解し、自分の考えを持ち、伝	74.3%
C 図や表、グラフ、短い文章、会話文等の内容を関連付けて、新たな課題となる事柄を	73.8%
D 図や表、グラフ、短い文章、会話文等の内容を関連付けて、順序良く、論理的に考え	40.5%
E 興味関心のある事がらについて、意欲的に工夫して相手に伝えようとする。	92.9%

【概要】

本校の観点別平均正答率の分布は、大阪府のそれと同じような傾向を示していますが、どの観点においても大阪府の平均を上回っています。

〈特に成果が見られた問題〉

観点Eに属する問題の3(3)、(4)においては正答率が非常に高い。これは、様々な教科でノートのまとめや新聞・ポスターの作成など、資料を読み取り活用してまとめるといった活動を続けてきた成果が出たものだと考えます。

〈特に課題が見られた問題〉

観点Aに属する1(1)や2(1)の正答率が50%台にとどまっています。そこから、条件が複数かつ複雑な内容になると、情報を正確に読み取りきれず、的確に処理することができないと思われま。さらに、観点Dに属する2(3)の問題では正答率が40%と非常に低くなっています。これは上で述べた観点Aに対する課題に加えて、論理的思考力が身につけていないことが原因だと考えられる。そこで、5年生と同様に情報を正確に読み取る力を身につけさせるとともに、プログラミングの授業なども活用し、論理的思考力も養っていきたいと思います。

(4) 児童アンケートについて

【概要】

学力学習状況調査の各設問において肯定的な回答が多く見られ、肯定的回答が全国や府の平均を上回っているものが多かったです。「毎朝の朝食」「毎日の起床・就寝時間」への質問に良好な回答が多く、子どもたちには規則正しい生活習慣を身につけていると考えられます。「携

帯・スマートフォン・パソコンについて」の質問に『持っていない』と答えた児童の割合が全国や府の平均の約3倍あるのも本校の特徴だと思います。

また「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか」「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」「人が困っているときは進んで助けますか」という質問に『当てはまる』と回答した割合は全国や府の平均より高く、「将来の夢や目標を持っていますか」への肯定的回答が高いのと合わせ、子どもたちの望ましい社会性は伸びてきていると考えられます。

しかし、「学校へ行くのは楽しいですか」という質問に当てはまると答えた児童の割合が、全国や府の平均より少し低くなっていました。子どもたちにとってより魅力的な教育活動をおこなえるようこれからも学校として努力していきます。

すすくウオッチの各設問においても肯定的な回答が多く見られます。質問番号(82)、(83)から、児童へのご家庭の温かいかわり方がうかがえます。また、これが質問番号(1)「自分にはよいところがある」につながっているのだと思います。

また、課題としては質問番号(27)(28)から、周りの状況から自分の感情や思いを抑え込む傾向があることがうかがえます。

〈特に成果が見られたアンケート項目例（学力学習状況調査より）〉

質問番号	質問事項	選択肢	A B C D E				
			A	B	C	D	E
83	自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか（一部抜粋）	本校(%)	40.	31.0	19.0	7.1	2.4
		大阪府(%)	22.	38.5	26.1	10.7	2.1
		全国(%)	23.	39.9	25.5	9.1	2.7

A=発表していた B=どちらかと言えば発表していた C=どちらかと言えば発表していなかった
D=発表していなかった E=考えを発表する場はなかった

肯定的な回答(AとBを足したもの)が大阪府より10.5%、全国より8%高いです。以前より、主体的・対話的な言語活動に力を入れ、各教科で友だちの意見を聞いたり、自分の思いを伝えたりする機会を設定し、工夫して授業を行ってきた成果だと考えられます。

質問番号	質問事項	選択肢	A B C D			
			A	B	C	D
(32)	あなたは学校で、コンピュータなどのICT機器を、他の友達と意見を交換したり、調べたりするために、どの程度使用していますか	本校(%)	38.1	42.9	14.3	4.8
		大阪府(%)	10.3	29.0	28.3	32.2
		全国(%)	10.0	29.0	29.1	31.7

A=ほぼ毎日 B=週1回以上 C=月1回以上 D=月1回未満

昨年度より学習ツールとしてタブレットパソコンを日常的に使用していることが、この結果からわかります。本年度からスマートスクールの研究を進めていますが、子どもたちにとってより良い学習活動の一助となるよう、校内でも研修を進めてまいります。

〈特に課題が見られたアンケート項目例（学力学習状況調査より）〉

質問番号	質問事項	選択肢	A B C D			
			A	B	C	D
(10)	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか	本校(%)	81.0	11.9	4.8	2.4
		大阪府(%)	84.3	12.3	2.3	1.1
		全国(%)	84.1	12.7	2.2	0.9

A=当てはまる B=どちらかといえば当てはまる C=どちらかといえば当てはまらない
D=当てはまらない

いじめはどんなことがあっていけないと考える子どもたちの割合が、わずかではあるが府や全国の平均を下回っています。これからも、道徳や人権教育に重点を置き、子どもたちの健やかな心の成長につなげていけるよう努力します。

〈特に成果がみられたアンケート項目例(すすくウオッチより)〉

質問番号	質問項目	肯定的な回答率	
		本校	大阪府
83	家の人に褒められることがある	95.	89.9%
82	家の人と、その日の出来事について話をしている	92.8%	80.5%
1	「自分にはよいところがある」と思う	90.5%	78.1%

〈特に課題がみられたアンケート項目例(すすくウオッチより)〉

質問番号	質問項目	肯定的な回答率	
		本校	大阪府
27	自分の気持ちを態度や表情には出さない	28.6%	43.7%
28	いやな気持ちになるようなことがあったときは、その気持ちを決して態度や表情に出さないようにする	47.6%	53.1%

2. 調査結果を受けて

(1) 学校が重点的に取り組んでいくこと

【教科に関すること】

国語・算数の学校の平均正答率は、全国平均を上回っていますが、今回の調査で「広い範囲から取捨選択した複数の情報を関連付けながら文章を構成する力」や「記述問題の無解答率」などの課題が明らかになったものもあります。これからも自分の考えをまとめて発表する活動に引き続き取り組むとともに、学力の土台となる基礎的・基本的知識・技能の習得を確実なものにし、「わかる授業」「楽しい授業」への取り組みを進めてまいります。

【生活習慣や学習環境に関すること】

先にも述べましたが、「毎朝の朝食」「毎日の起床・就寝時間」については本校の児童は、大阪府や全国の平均を上回り、基本的な生活習慣が身につけている様子が見られました。この結果が継続できるよう、これからもご家庭と連携し、取り組んでいければと考えております。また、児童がより学校へ行くことが楽しみとなるよう、ICT環境等ハードの部分と安心して活動できる居場所としてソフトの部分での学習環境を整えることを進めていきます。

(2) 児童のみなさんにしっかり取り組んでほしいこと

- ①「何を伝えようとしているのか」意識して聞くようにしましょう。
友だちの考えを聞くことで自分の考えを深めたり、新しい発見をしたりすることができ
ます。
- ②自分の考えをしっかりと伝えるようにしましょう。
正しく聞く、伝えるためには内容を整理することや言葉を選ぶことが大切です。
- ③読書活動を通して語彙を増やしたり表現のしかたを学んだりしましょう。
- ④家庭学習をていねいに行い、学習したことをしっかりと身につけましょう。
繰り返し練習することも大切です。
- ⑦わからないことをそのままにせず、先生に聞きましょう。
わかる楽しさをいっしょに感じましょう！

(3) 保護者のみなさまに協力してほしいこと

今回、配付いたしました調査結果をお子さんと一緒にご覧になり、学力・学習状況の把握していただきますようお願いいたします。これまで学習した内容について、「しっかりと身につけているか。」「基礎的・基本的な問題は理解しているか」「国語・算数、地域での学びの中で学習した内容を学習や日常生活の中で活用しているか」など、ご家庭のご協力を得ながら学校としても指導の充実を図っていきたく思います。

また、子どもたちが健康で意欲的に学習活動や行事に取り組んでいけるよう、規則正しい生活習慣の維持を引き続きお願いします。

今後とも、本校の教育活動にご理解とご協力をお願いします。

令和3年度 すくすくウォッチの分析について

深秋の候、平素は本校教育のためにご支援ご協力を賜りまして厚くお礼申し上げます。令和3年度の本校、すくすくウォッチの結果について、分析（成果と課題）及び取り組みをご報告させていただきます。

1. すくすくウォッチの概要

(1) 【国語】について

評価の観点別	学校の平均正答率
知識・技能	86%
思考・判断・表現	84%

【概要】

どの観点で見ても、平均正答率は大阪府のそれより上回っている。特に、[思考・判断・表現]の「書くこと」において、8.6ポイントも上回っており、2年前から学校として国語科の授業について研究し「書くこと」に重点を置いて指導してきた成果が表れてきているのではないかと考えられる。[知識・技能]については、「言葉の特徴や使い方に関する事項」や「我が国の言語文化に関する事項」においては4ポイント以上上回っているのに対し、「情報の扱い方に関する事項」においては上回ってはいるものの1.7ポイントにとどまっている。

〈特に成果が見られた問題〉

6の(1)(2)の対義語を答える問題と7の(1)の代名詞が表す言葉を答える問題に関しては、正答率が100%である。また、2の(2)の助詞を正す問題や7の(2)の代名詞に関する問題、9の接続詞に関する問題の正答率も非常に高い。このことから、昨年度から週一回行っている作文スキルや、それ以前の「ことばのちから」のワークシート等の取り組みにより、語彙力や短文を作る力が付いてきていると考えられる。

〈特に課題が見られた問題〉

4の(2)の日本語をローマ字に変換する問いに関して、準正答を合わせると60%後半だが、正答率だけ見ると、50%を切っている。ローマ字は、タブレットを活用していくのに必要なタイピングや、中学校の英語につながるものなので、3年生で習い始めたときから継続して指導を行い、定着を図っていく必要がある。3の(2)の文の内容に合わせて文末を書き換える問いでは、正答率が60%を少し上回るにとどまっている。文を作る力が少しずつついてきてはいるものの、まだ苦手な児童もおり、今後も継続して取り組んでいく必要がある。

(2) 【算数】について

評価の観点別	学校の平均正答率
知識・技能	62%
思考・判断・表現	34.1%

【概要】

本校の平均正答率はすべての問題において大阪府の平均正答率を上回る結果となった。

特に、「数と計算」の領域では、大阪府の平均正答率を

6.1ポイント上回っていた。これは、スキルタイムなどを活用し練習問題に取り組んだ結果、計算の基礎的な学力がついてきていると考えられる。

しかし、「思考・判断・表現」の観点においては、大阪府の平均正答率を上回っているものの、34.1%にとどまっており、課題が見られる。

〈特に成果が見られた問題〉

2(1)の折れ線グラフの簡単な読み取りにおいて、正答が100%というところから、基礎的なデータ活用の力が身につけていることがわかる。1人1台端末を活用して授業づくりをしていることもあり、グラフなどからデータを読み取る力が身につけてきた成果だと考えられる。

〈特に課題が見られた問題〉

1(4)では情報量、問題数ともに他の問題よりも多い。またこの問題の記述部分では立式したものを言葉の式で表すといったものであるため、普段の授業の場面において、立式した数字が何を示しているのかを考えさせていく必要がある。計算力や数学的思考力を高めるとともに、自分の考えを文章で記述する論理的思考力と、文章力の育成にも力を入れていく必要がある。

(3) 【理科】について

評価の観点別	学校の平均正答率
知識・技能	57.7%
思考・判断・表現	42.1%

【概要】

本校の平均正答率は「知識・技能」「思考・判断・表現」のどちらの観点においても大阪府の平均正答率を上回っていた。特に「物質」の領域では、他の領域より

も平均正答率が高く、大阪府の平均正答率を7ポイント上回る結果であった。しかし、「思考・判断・表現」の観点においては、大阪府の平均正答率を上回っているものの、42.1%にとどまっており、課題が見られる。

〈特に成果が見られた問題〉

1(1)の方位磁針の使い方や磁石の性質など知識を問われる問題や2(4)の電流を流した時の金属の性質についての知識を活用する問題の正答率は高く、日頃の授業などを通して、基礎的な知識の定着が図られていることが分かる。

〈特に課題が見られた問題〉

1(4)の太陽の向きから影のでき方を考え、地表の湿度の違いを判断する問題や、2(2)の乾電池につないだ豆電球が光らなかった理由を複数回答する問題などの正答率が低かった。今後は様々な実験を自分の手で行うことや、課題を多面的にとらえ、他の児童と協働して考えを深める活動を行うなど、思考力・判断力を身につけられるよう取り組んでいくことが今後の課題だと考える。

(4) 【わくわく問題】(教科横断的)について

観点別	学校の平均正答率
A 図や表、グラフ、短い文章、会話文等に示された内容を関連付けて、正しく捉える。	43.9%
B 図や表、グラフ、短い文章、会話文等の内容を正しく理解し、自分の考えを持ち、	73.2%
C 図や表、グラフ、短い文章、会話文等の内容を関連付けて、新たな課題となる事柄	68.3%
D 図や表、グラフ、短い文章、会話文等の内容を関連付けて、順序良く、論理的に考	17.1%
E 興味関心のある事गरらについて、意欲的に工夫して相手に伝えようとする。	74.4%

【概要】

本校の観点別平均正答率の分布は、大阪府のそれと同じような傾向を示しているが、ほとんどの観点において大阪府の平均を上回っている。しかし、観点Dにおいては大阪府の平均正答率を大きく下回っており、20%に満たない。

〈特に成果が見られた問題〉

観点 B に属する 1 (2) と 2 (2) の問題の正答率は 80 % を超えており、資料を踏まえて考えを伝える力は身につけてきている。しかし、2 (2) の問題について、正答率の内訳は正答が 2.4 %、準正答が 78 % となっており、準正答の占める割合が高いため、より正確に情報を読み取る力は必要である。

〈特に課題が見られた問題〉

観点 A に属する 1 (1) が 43.9%、2 (1) が 26.8% と正答率が低い。そこから、条件が複数かつ複雑な内容になると、情報を正確に読み取りきれず、的確に処理することができないと思われる。さらに、観点 D に属する 2 (3) の問題では正答率が 17.1% と非常に低くなっている。これは上で述べた観点 A に対する課題に加えて、論理的思考力が身につけていないことが原因だと考えられる。そこで、6 年生と同様に情報を正確に読み取る力を身につけさせるとともに、プログラミングの授業なども活用し、論理的思考力も養っていききたい。

(5) 【児童アンケート】について

〈特に成果がみられたアンケート項目例〉

質問番号	質問項目	肯定的な回答率	
		本校	大阪府
11	悲しんでいる人を見ると、なぐさめたくなる	90.2%	80%
84	家の人と一緒に、遊んだり、勉強したり、家の仕事をしたりすることがある	87.8%	82.7%
36	はっきりした明快な答えが出るまでずっと考える	68.3%	56%
77	課題や問題に取り組んでいる途中で、うまくいかなかったときは、やり方を変えている	75.6%	64.3%
29	自分にだけよいことがあって、まわりの人がそうでないときは、その気持ちを態度や表情に出さないように注意する	75.6%	65.2%

〈特に課題がみられたアンケート項目例〉

質問番号	質問項目	肯定的な回答率	
		本校	大阪府
19	困ったときには、友だちに手伝いを頼むことができる	61%	76%
55	学級会では、意見を言いやすい	24.4%	50.4%

【概要】

質問番号(36)、(77)の結果から、5 年の児童は学習に対して粘り強く取り組む態度や意欲、疑問に思ったことへの探求心が養われていることが分かります。また、質問番号(11)や(29)から、優しさや思いやり、周りの状況を把握し友だちを慮る心が養われていることが分かります。これは質問番号(84)にあるように、ご家庭で学習や様々な活動を児童に経験させていただいていることも要因の一つだと考えています。

しかし、質問(19)や(55)からは、友だちとの関わりや信頼関係に課題があることが分かります。これは、長所でもある質問番号(29)の裏返しではないかと考えます。周りの状況を思うばかり、自分を出しきれていないのではないのでしょうか。これからも学習の場面で話し合う活動などを多く持ち、お互いに考えを深めたり、広げたりする活動に力を入れていくことで、対応していきます。

2. 調査結果を受けて

(1) 学校が重点的に取り組んでいくこと

【教科に関すること】

国語・算数・理科・わくわく問題の学校平均正答率は、大阪府平均を上回っていますが、今回の調査で「自分の考えを文章で記述する論理的思考力」と「文章力」に課題が感じられました。左でも述べたように、情報を正確に読み取る力を身につけさせるとともに、プログラミングの授業なども活用し、論理的思考力も養っていく取り組みを進めてまいります。

【アンケートに関すること】

先にも述べましたが、児童は学習に対して粘り強く取り組む態度や意欲、疑問に思ったことへの探求心が養われていることが分かりました。この結果が継続できるよう、これからもご家庭と連携し、取り組んでいければと考えております。また、課題が見られた友だちとの関わりにおいては、友だちとつながることが楽しみとなるような学習活動や体験活動を工夫し、取り組んでまいります。

(2) 児童のみなさんにしっかり取り組んでほしいこと

① 「何を伝えようとしているのか」意識して聞くようにしましょう。

友だちの考えを聞くことで自分の考えを深めたり、新しい発見をしたりすることができます。

② 自分の考えをしっかりと伝えるようにしましょう。

正しく聞く、伝えるためには内容を整理することや言葉を選ぶことが大切です。

③ 読書活動を通して語彙を増やしたり表現のしかたを学んだりしましょう。

④ 家庭学習をていねいに行い、学習したことをしっかりと身につけましょう。

繰り返し練習することも大切です。

⑦ わからないことをそのままにせず、先生に聞きましょう。

わかる楽しさをいっしょに感じましょう！

(3) 保護者のみなさまに協力してほしいこと

今回、配付いたしました調査結果をお子さんと一緒にご覧になり、学力・学習状況の把握していただきますようお願いいたします。これまで学習した内容について、「しっかりと身につけているか」「基礎的・基本的な問題は理解しているか」「国語・算数、地域での学びの中で学習した内容を学習や日常生活の中で活用しているか」など、ご家庭のご協力を得ながら学校としても指導の充実を図っていきたく思います。

また、子どもたちが健康で意欲的に学習活動や行事に取り組んでいけるよう、規則正しい生活習慣の維持を引き続きお願いいたします。

今後とも、本校の教育活動にご理解とご協力をお願いいたします。